幼稚園の經營私見（一）

附屬小學校主事　堀　七　藏

一

近時幼稚園の設立せられるもの甚だ多きことは我が國幼稚園教育の發展進歩の上に於てこの上もなき慶事といはねばならぬ。今過去三ヶ年の統計を見ると次の如くである。

年	幼稚園數	保姆數	幼兒 男	幼兒 女	一幼稚園當りの幼兒數	保姆一人當り幼兒數
昭和二年	一、〇八六	三、二六六	四八、五三〇	四五、九〇二	八八・五	二九・八
三年	一、〇八二	三、五九一	五一、〇九四	四八、二八〇	九一・八	二七・六
四年	一、二九四	三、九一九	五四、九三〇	五二、三〇八	八二・九	二七・四

これを見ると昭和三年には二年に比べて幼稚園數の增加は僅に十六にすぎないが、昭和四年には二百十二の幼稚園が增加してゐる。從つて昭和二年に比し二割の增加率を示して居る。また幼兒の數に於て昭和二年には男が四萬八千五百二十人、女が四萬五千九百二人であるが、昭和三年には男兒が二千三百七十八人、女兒が二千五百七十二人合計四千八百八十人の增加を示してゐる。更に昭和四年に於ては男兒

が五萬四千九百三十人で三千八百三十六人の增加をなし、女兒は五萬二千三百八人で四千二十八人の增加を示してゐる。故に昭和四年には男女合計七千八百六十四人の增加である。それで昭和二年に比し昭和三年には幼兒數が五・一七%の增加率を示し、昭和四年には八・三三%の增加率を示してゐる。故に昭和二年に對し昭和四年には一三・五%の幼兒增加率であることは誠に注目すべき事實である。卽ち昭和四年に於ては幼稚園數に於て二〇・〇%の增加率を示し、幼兒數に於て一三・五%の增加率を示してゐることは如何に我が國幼稚園が昭和三年より四年にかけて著しい發展をなしたかを物語るものといはねばならぬ。

二

昭和四年に於ける幼稚園總數が千二百九十四、幼兒總數が十萬七千二百三十八人であるから現在全國幼稚園數は一千三百、幼兒總數十一萬人と見做すとも大なる誤はない。

然るに一方全國小學校總數は二萬五千六百六校で、小學校兒童總數は九百六十八萬七百三十二人である。それで小學校總數を二萬五千六百、兒童總數を九百六十八萬人と概數をとるとも大なる不都合はない。之に對する幼稚園數及幼兒數の比を求めると次のやうになる。卽ち幼稚園は小學校の僅に五%にすぎず、幼兒數は小學校兒童數の僅に一・一%にも達しないのである。勿論小學校教育は義務教育であり、全國の學齡兒童の就學を督勵してゐるから、學齡兒童の殆ど全部が就學してゐるのに幼稚園は義務的强

制がなく、また小學校の如く六ヶ年又は八ヶ年の教育年限に對し僅に滿四歳五歳の二ヶ年であるから幼稚園幼兒數の僅少なることは理の當然である。しかし全國幼兒中滿四歳兒は一、五一四、四九八人にして滿五歳兒は一、五九九、四九一人である。是等滿四歳五歳兒の合計は三、一一三、九八九人にしてザット三百十一萬人その中僅に十一萬の幼兒が幼稚園に入園するにすぎないから幼稚園時代の全幼兒中僅にその三・五%しか幼稚園保育を受けてゐない現狀である。之を諸外國に比べると我が國幼稚園教育が甚だ振はないといはねばならぬ。

英國では滿五歳から十四歳までが義務教育となつてゐるから、我が國の幼稚園の一部が小學校に含まれてゐる譯である。それで小學校生徒數が人口との對比は十八・〇%である。我が國の小學校兒童數が人口との對比が一一・五%に比べると著しく大である。若し日本の對比を一とせば、英國の對比は一・六%であるから英國の幼稚園教育が相當に普及してゐることがこれでも分るのである。勿論英國の義務教育年限が八年であるからこの對比の大なる理由は他にもある。

米國では一九二五年に幼稚園幼兒が六七三、二三一人であるから小學校兒童數二千二百四十五萬に對し幼稚園幼兒が六十七萬人の割である。それで幼稚園幼兒は小學校兒童の約三%に達してゐる。

また佛蘭西では一九二八年には公立幼稚園が三〇六五、私立幼稚園六二五で計三六九〇である。而して幼兒數は公立幼稚園が三五五、五四四人、私立幼稚園が三八、一〇八人、計三九三、六五二人、卽ち三十九萬人以上である。更に小學校兒童は三百八十五萬人强である。故に佛蘭西では幼稚園幼兒が小學校兒

童數に比べて一〇・二%である。また人口千人に對する幼兒數九人である。これを見ると佛蘭西では幼稚園教育が如何に發達してゐるか、想像がつく。而して佛蘭西では一幼稚園當り幼兒數は一〇七・二人になつてゐるから、我が國の幼稚園よりも一幼稚園當り幼兒數が大きいのである。

獨逸では幼稚園があまり發達してゐないが、幼稚園の統計がないから茲に數字を示すことが出來ない。伊太利では幼稚園が著しく發達してゐる。一九二七年の統計によると幼稚園數は七千七十六、幼兒數は六十萬七千八百九十一人である。而して初等學校生徒數は三百八十三萬一千五百三十九人であるから幼稚園幼兒數は小學校兒童數に對し十六%弱である。人口四千萬しかない伊太利で幼稚園幼兒が六十萬人以上あるが、我が國では人口六千百三十萬人もあつて幼稚園幼兒が十萬に足らぬのである。我が國と伊太利とを比べると幼稚園教育に於て大變な相違である。ロシヤでも一九二七年には幼稚園が三千九百二十二、幼兒數が三十萬六千二百六十六人で人口千人に對する幼兒數二人である。また人口八百五十二萬の匈牙利では一九二七年に幼稚園托兒所が九百八十五で幼兒數が十萬八千四百七十七人もある。こでは、教師一人に對する幼兒數七十九人人口千人に對する幼兒數十二人である。また白耳義では人口が七百九十三萬人餘、幼稚園が三千七百三十四で幼兒數は二十四萬五千百八十六人である。故に人口千人に對する幼兒數が三十一人である。初等教育の學校數が八千三百五十で、生徒數が八十萬三千六百二十人で人口千人に對する生徒數は一〇一人である。從つて幼稚園幼兒數は初等教育の學校生徒の約三分の一である。これを見ると白耳義では著しく幼稚園教育が發達してゐることが分る。和蘭は人口七百六

十二萬であるが一九二六年幼稚園數が一千五百六十二で、幼兒數は十六萬人、教師一人に對する幼兒數は三十八人で、人口千人に對する幼兒數は十三人である。尤も初等教育では學校數が七千四百三十四、生徒數が百七萬七千人弱　教師一人に對する生徒數が三十一人、人口千人に對する生徒數が百四十一人である。故に和蘭では小學校の十分の一位幼稚園幼兒がゐる譯で、白耳義の如く幼稚園が發達してゐないが、兎に角和蘭も亦よく幼稚園が發達してゐる有樣である。

三

我が國に於て幼稚園教育は英國の如く義務年限中に入つてゐないから自然公立幼稚園が少く、私立幼稚園が多い。殊に關西では公立幼稚園が相當に發達してゐるが、關東では私立幼稚園が多く、公立幼稚園が甚だ少い。東京市でも日本橋、京橋、麹町區に公立幼稚園が多く、多いのは七少くとも三もある。しかし本郷、麻布、赤阪、芝、下谷、深川等には一公立幼稚園か二幼稚園位しかなく、神田、牛込、小石川、淺草等には公立幼稚園がないといつた有樣である。

米國では公立幼稚園が多く、多くは公立小學校に附設せられてゐる。また佛蘭西では公立幼稚園が三千六十五、私立幼稚園が六百二十五である。そして公立幼稚園の幼兒は三十五萬五千五百四十四人で、私立幼稚園の幼兒は三萬八千百〇八人である。それで人口千人に對する幼兒數は公立では八人で私立では〇・八人である。

本來幼稚園は公立でなくては經營が困難である。私立ならば財團法人とか慈善團體とか社會事業團體などにて經營すれば兎に角、純然たる私立幼稚園は經濟上經營困難に陷る場合が少くない。

幼稚園は小學校と異り、多數の幼兒を收容することが出來ない。我が國では一幼稚園當りの幼兒數は八十人から九十人、大きな幼稚園でも百二十人である。佛蘭西では一幼稚園當り幼兒數百十人を出ない。それで我國幼稚園令施行規則第三條には「幼稚園ノ幼兒數ハ百二十人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ約二百人マデニ增スコトヲ得」とある。また同第四條には「保姆一人ノ保育スル幼兒數ハ約四十人以下トス」とある。これは幼稚園の性質上小さなものが數多きことが幼稚園教育普及の理想からいつて當然なるを以てである。幼兒は遠距離より通園することが困難であるから人口の稠密なる都市ならば兎に角、一幼稚園では小學校の如く多數の幼兒を收容することが出來ず、一組の幼兒數が多いときには十分保育が出來ない。それであるから幼稚園經營の原則としては通園距離の小なることが肝要である。一幼稚園の收容幼兒は六十人以下を標準とせねばならぬ。多くとも九十人を出ないがよい。尤も一組四十人までを許容するとせば八十人か百二十人を限度とする。若し公立幼稚園にて保育料を以て自給自足の原則にて幼稚園經營を行ふとせば如何にすべきか。保育料月二圓とせば幼兒六十人で百二十圓、八十人で百六十圓、最大限百二十人を定員とするも二百四十圓である。この月二百四十圓にて如何に幼稚園經營をなすべきか。大都會にても月參圓の保育料は高いといはれる有樣である。假りに月參圓の保育料で百二十人を保育する場合には三百六十圓、これを以て自給自足の幼稚園經營をなし得るか。